

## 2013 年度夏季海外研修（韓国語・韓国文化コース）研修レポート

社会福祉学部 Cさん

8月27日から2週間、韓国の大学へ語学研修に行ってきました。私たちが参加したのは韓国のキョンヒ大学国際教養学部の3週間海外プログラムで、私たちはそのプログラムのうち2週間だけの参加となりました。私にとっては初めての海外、毎日が刺激的で、新鮮で、貴重な体験となりました。

そもそも私が「このプログラムに参加したい」と思ったのは単純な理由です。韓国アーティストが好きで、もともと韓国に興味があり、行きたいと思ったからです。しかも、このキョンヒ大学は東方神起のチャンミン、ユチョン(現 JYJ)、スーパージュニアのキュヒョン、ハン・ガイン、ユン・ウネなど韓国の有名芸能人の出身大学で、もう「これは行くしかない！」というただそれだけでした。

初海外の私にとってももちろん飛行機も初体験でしたが、このレポートで飛行機のことから書いてしまうと超大作になりそうなので、省略します。海外研修初日、午前中は入校式でした。入校式の印象は、日本人が多いこと。県立大学からの参加者も13人とそれなり的人数でしたが、そのほか静岡や福岡、東京など日本人留学生が多かったと思いました。そして、入校式が時間通りに始まらないこと。日本ではこのような式典や集まりがある際、基本遅刻は厳禁、5分前には会場についているように心がけるのが普通ですが、日本以外の国は余裕で遅刻してきます。初日ということで意気込んでいた私達ですが、早速文化の違いを感じた出来事でした。入校式に続いて午後は韓国語のクラス分けテストでした。試験の構成は筆記試験と口頭試験です。マークシート形式の筆記試験はなんとか答えられたものの、口頭試験は言い換えれば、韓国についてから初の韓国語の実践の場となります。私は緊張して、全く答えられませんでした。しかし、この口頭試験が今後のクラス分けに大きく関わるので、緊張と言っていないで全力で自分の力を出すべきだなどと思いました。

この研修では平日毎日9時から韓国語の授業が始まります。つまり、2週間毎日1限があるようなものです。私たちは大学から徒歩15分ほどの寮で生活していたのですが、朝の早起きが苦手な私にとっては、とてもつらいものでした。授業形式は1クラス15人前後の少人数で、すべて韓国語で行われました。先生の説明も韓国語で行われるため、理解しようと授業中は眠くなる暇なんてあるわけがなく、頭フル回転です。正直に言います。疲れます。朝は早いうえに、授業中は終始集中、午前中で授業が終わるといっても、午前中で1日過ごしたかのような疲労感でした。しかし、すべては自分の力になること。そう考えると自然に頑張ろうと思えるものでした。

午前中を終えて、午後は基本自由時間でした。キョンヒ大学の周りは大学周辺ということで学生向けの安くておいしいお店や、可愛い服屋さんなどたくさんのお店が立ち並んでいます。疲れた体と脳を癒す、甘くて冷たいピンス(かき氷)や、カフェ、ドーナツなど一度に挙げきれないくらいのお店です。2週間で全部を回るのは不可能でした。日本料理のお店もたくさんありましたが、日本料理は日本が一番おいしいわけで、韓国に来たのだから

ら、韓国ならではの冷麺やビビンパなどを楽しむのが一番だなと思いました。

ここまで平日のお話でしたが、続いて休日のことを紹介します。私たちは休日毎週トウミと過ごしました。トウミとは学校の授業以外での韓国語をサポートしてくれるキョンヒ大のチューターの学生さんのことです。私のトウミは一つ年上の経営学部の女子学生さんでした。トウミとトウミの友達、そして私の友達3人の6人で休日はいつも一緒に過ごしました。明洞、弘大、梨大、アックジョン、景福宮、新沙洞、様々などところに行きましたが、買い物とおしゃべりしかほとんどしませんでした。というのも、私のトウミがソウルでは地方出身、もう一人はあまり外出が好きではない、ということで、ほぼ私達が行きたいこと、やりたいことしかしておらず、案内や地元の人が知っている情報などは全く得られませんでした。しかし、韓国語でコミュニケーションをとって、お話して、お互いの文化の違いに驚いて、私たちも日本語を教えて、一緒に過ごす時間そのものが貴重で、場所なんて関係ないなと思いました。移動手段はすべて地下鉄でしたが、駅構内のコンビニで「交通カード作りたいのですが…」と言い作ってあとはチャージをすれば日本のsuicaなどと同じように地下鉄に乗れるので、特に不便なことはなかったです。

韓国での生活や、トウミの方とお話ししてきついた文化の違いもたくさんありました。まず、日本のアニメ文化についてです。若い人の間では日本といえばアニメというイメージが日本にあるのか、すぐアニメや漫画の話になります。なかでもワンピースは男女問わず人気なようです。しかし私はアニメや漫画を見ないので、アニメトークにさっぱりつけず、むしろ日本人ではない人たちの方が日本のアニメについて詳しくかったです。挙句の果てに日本人はみんなアニメを見て過ごしていると思っているのか「日本で何して暮らしているの？」と聞かれました。アニメを見なくても暮らしていくことは出来ます。

最初は自身のなかった韓国語も2週間終わってみれば、日常会話程度はできるようになっていました。簡単な韓国語は日本語よりも先に出てしまうくらい、身近になった気がします。私にとってこのプログラムに参加できたこと、韓国にいったことだけでも満足なのに、韓国をはじめ世界のいろんな国の人、日本全国の人と友達になれて、おまけに韓国語も上達して、本当に旅行では得られない経験ばかりできて大満足の2週間となりました。ただやはり観光の部分では時間の関係や下調べ不足であまりゆっくりできなかったのも、次はこの研修で上達した韓国語を生かして旅行に出かけたいです。

まだまだ書きたいことはたくさんあるはずなのに、思い出すと何から書いていけばいいかわかりません。やはり、大切なのは自分の記憶、経験として自分の中に残しておくことなのではないかと思います。文章にしても、写真をとっても、誰かにお話をしてみても、伝えられるのはほんの一部で、その一瞬一瞬の天気も気温も空気感も、その場にいた人にしかわからないことです。目で、鼻で、耳で、肌で感じたそのすべてが経験となって自分の中で、何か大切なものになれば、その経験が意味を持つのだと今回実感したし、「大切なものが目に見えない」の本当の価値を分かった気がしました。とてつもなく疲れた2週間でしたが、その分簡単には経験できない最高の2週間を過ごせたことに感謝します。この研修で出会えたすべての人、すべての体験に感謝します。ありがとうございました。

<入校式・オリエンテーション>

韓国に到着した翌日の午前中に行われました。日本からの学生が一番多く、東京や大阪、福岡等の大学生が参加していました。また、中国やロシア、英語圏などさまざまな国から男女問わず、この研修に参加していました。国際教育院長が挨拶で「健康に・熱心に・楽しんで勉強してください」とおっしゃっていたことが特に印象に残っています。

午後はクラス分けのための試験が行われます。はじめにマーク式の筆記試験、その後別室で口頭試験をします。筆記試験の点数によって面接の内容が異なるようで、自分は口答試験で何を質問されているのか、質問がわかって答えようとしてもどう答えたらいいかわからない状態でボロボロでした。(笑)

<授業・学校生活>

授業は月～金曜日、午前9時～13時まで、50分×4コマで行われます。試験でふりわけられた級によって異なるテキストとワークブックを購入し、それをもとに授業は進みます。何日にテキストのどのページを勉強するかを先生が教えてくれて、授業のときわからない単語がないように予習すること、習ったことを日常でも話せるように家に帰ってから復習すること、これが毎日の宿題でした。授業中、わからない単語が出てきても、スマホの使用が禁止されておらず、設定すれば無料でWi-Fiが使用できるので、電子辞書を持っていかなくても意外と大丈夫でした。自分がいたクラスの先生は日本語を全く使わない方だったことと、中国や香港、ベネズエラから来ている方もいたため、授業外でも常に韓国語を話さなければ、と甘えが出なくてよかったと思います。

<宿舎(チャンドクアン寮)>

自分たちが過ごした宿舎は回基(フェギ)駅のすぐ近くで、学校まで歩いて15分弱です。宿舎の近くにはコンビニやカフェ、日本でいうダイソーもあってとても住みやすい環境でした。シャワーサンダルなど韓国で調達できるものも多いので、日本から大荷物で行く必要もないのかなと思いました。

部屋では、設定すれば無料でWi-Fiも使用できます。部屋もきれいで、冷蔵庫や電子レンジ、洗濯機もあってとても便利でした。ひとつ驚いたのは、洗濯機の使用法の取扱説明書通り“標準”で洗濯をし始めると、終わるまで1時間半くらいかかったことです。寝る前に回しておこうとしただけなのに、結局洗濯が終わるまで眠れませんでした。

<トウミ>

トウミの方は自分を担当するとわかっていますが、自分はそのトウミの方が来るまで男性か女性か、年上か年下かもわかりません。自分の担当をしてくれたのは年上の男性でした。日本語は全く喋れないようで、自分は拙い韓国語と英語で必死に会話をしようとして必死でした。トウミは日本語がペラペラな方から全くできない方までさまざま、会ってみたいとわかりません。連絡手段として、カカオトークなどをやっていると思いまし

た。トウミの方とはカフェでお話したり、食堂でごはんを食べたりしながら韓国語を教えてもらいました。休日にも時間を作ってくれて、地下鉄に乗って明洞や景福宮などさまざまな場所を案内してくれました。ひとつ残念だったのは、自分たちが2週間で日本へ帰ることをトウミの方が知らず、なかなか会う機会を持てなかったことです。トウミの方にはそのことを早めに知らせ、予定を合わせられるように調整するのがいいと思いました。

#### <韓国での生活>

韓国で過ごした2週間で自分が一番大変だと感じたのが注文です。発音がよくない上にどうしても注文のする声が小さくなってしまいうので、店員さんに何回も「ん？」と聞き返されたし、日本人の悪い癖ではい／いいえがはっきり言えないために店員さんをよく困らせてしまいました。また、お会計の際に、会計が小さいのに大きいお金を出すと“NG”と言われたことに驚きました。日本では990円のお会計に一万円を出してもおつりをくれるのが当たり前だけど、韓国では一万円を出すこと自体断られることもあり、文化の違いに気づきました。

韓国料理はおいしかったです。チゲ鍋やキンパ(海苔巻き)、チヂミなどさまざまなものを食べました。もちろん辛かったです、だんだんと舌が慣れていきました。本場の焼肉はとてもポリューミーでキムチなどをはさみながら野菜で巻いて食べるので、お米を食べなくてもお腹いっぱいになりました。

辛くなった口を落ち着かせるためか、韓国の通りにはカフェがたくさん並んでいます。一日に違うカフェに3軒入ったこともありました。日本ではあまりないですが、飲み物を出してくれるところにはスリーブが置いてあり、自由に持っていくことができるので個人的にとってもよかったです。

#### <最後に>

2週間という短い研修期間ではありましたが、韓国という異国の地で学んだこの2週間は自分にとって貴重な経験となりました。自分の韓国語の未熟さに嫌になることもありましたが、韓国に行った初日よりもできるようになったことが増えて素直に嬉しいです。同じクラスになった日本や海外の学生さん、現地の学生さんとの交流もあり、この研修を通してたくさんの人と知り合うことができました。

最後になりますが、素敵な研修をサポートして下さった方々に感謝したいと思います。

夏季韓国研修に参加し、2週間自分たちだけで生活した体験はとても貴重なものとなりました。

私は韓国のドラマや音楽が好きで、韓国に対してもいいイメージも持っていますが、日本にはそうでない人がたくさんいるように思います。たしかに、2週間も生活していいところばかりではないなと感じたことも多かったです。しかし、そう感じたのと同時に、日本の良さを再確認することができました。

そう感じた瞬間としてまず、店員さんの態度です。トイレの場所を聞きたくて入ったコンビニの店員さんは、営業中にもかかわらず携帯をいじっていました。それだけではなく、お客さんがレジにいるのに、電話をかけながら精算をしている姿をみて唾然としました。コンビニだけでなく、空港でも携帯電話をいじっている社員さんの姿があちこちに見られショックを受けました。しかし、そうした光景にも慣れてくるうちに、日本では携帯をいじりながら仕事をするという行為がありえないと認識されていることを誇りに思いました。

また、お店やまちの道路がすごく汚いことに慣れるのが大変でした。お店で食べたものをきちんと片付けて返すのは日本人くらいだというのを聞いたことがありますが、テーブルも拭かないのは驚きでした。そうした環境に慣れるには2週間は短いと感じました。

キョンヒ大学での授業は、本当に新鮮でした。授業はすべて韓国語で行われるため、初めは、まったくわからず、まわりの学生が教科書を開いたら私も開く、学生が何か書き出したら私もペンを握ってみるといような日々でした。それでは来た意味がないと、放課後や休日はカフェに行き韓国語を勉強しました。そうしているうちに、だんだんと授業で話している韓国語はわかるようになってきて、先生の簡単な質問にも韓国語で返せるようになりました。また、授業を受けているクラスメートが同じ日本人でも、広島や長崎など韓国よりも遠い地域出身の学生が多く、地域の特性や方言など韓国語以外のことも学べるよい機会となりました。

キョンヒ大学での授業以外にもたくさんの場面で韓国語を勉強することができました。とくにトウミとの時間は、外国の同世代の日常を体験することができ本当に楽しかったです。その反面、日本人の学生は勉強をあまりしないように感じました。そう感じたのは、英語力と自分の専攻を語れなかったからです。お店でも店員さんが韓国語を使えないと感じると英語で接客してきます。トウミも基本的に私たちに日本語で接することを禁じられているようで、韓国語か英語で会話することが理想だったようです。さらに、入学説明会では、各国から学生が集まっているにもかかわらず、通訳が韓国語、日本語、英語でした。

韓国研修では、韓国語や韓国文化を学ぶ機会だと思っていましたが、研修を終えて思ったことは、さまざまなことを日本と韓国で比較することができ、日本がダメなところや日本の良いところを身をもって感じることもできた貴重な研修となりました。

私は8月27日から9月11日までの2週間、韓国ソウルにある慶熙大学校へ韓国語や韓国の文化を学ぶために、研修に参加をしてきた。2週間という短い期間ではあったが、現地の大学で韓国語や韓国の文化を学び、現地の方とふれあうことによって、貴重な経験を沢山することが出来た。そのため、今回、韓国研修での体験をこのレポートにまとめていく。

## 1、慶熙大学国際教育院について

私たちの研修先である慶熙(キョンヒ)大学はソウルにある私立大学であり、とても大きな大学である。その慶熙大学のソウルキャンパスにある国際教育院で私は韓国語や韓国の文化に関する授業を受けてきた。国際教育院は韓国語・外国語専門教育機関であり、沢山の外国人学生が韓国語や韓国の文化を学びに来ている。実際に、日本はもちろん、中国や台湾、ヨーロッパなど様々な国の学生が私と同じ研修を受けにきていた

写真：国際教育院



## 2、研修内容について

### 2-1 韓国語の授業

韓国語の授業は、初日にレベル分けテストを行い、レベルごとにクラスを分けて授業を行った。レベル分けテストの内容は筆記試験と口頭試験の2つで、口頭試験では韓国語で会話をするという試験であった。授業では、自分のレベルにあった韓国語の話す、聞く、書く、読むことを学び、月曜日から金曜日の午前9時から午後1時まで行った。クラスは1クラス



10人前後の少人数と韓国人の先生1人というスタイルであった。私のクラスはほとんどが日本人であったが、台湾人とサウジアラビア人の学生もクラスメイトであり、年齢はみんなばらばらであった。具体的な授業内容としては、教科書にしたがい、さまざまな場面で使用する韓国語を学んだ。先生が話すのは全て韓国語であったため、意味のわからない単語などもあったが、ゆっくりと身振りをつけて話していただいたために、聞き取ることは辛いものではなかった。また、席が隣の人と会話の練習をしたりもした。

韓国語の授業では、今まで自分が知らなかった文法や、独学では難しい発音の練習など沢山のことを得ることが出来た。また、韓国語で行われた授業であったために、聞き取る力も強化することが出来たと感じた。

### 2-2 韓国文化授業

韓国文化授業は文化特講(K-POPや韓国ドラマ、韓国の遊びなど)と韓国語の読み、韓国語の聞き取り、韓国語の会話のいずれかを自分で選択して授業を受けた。火曜日と

木曜日の韓国語の授業が終わった後の午後2時から午後4時まで行った。私は、韓国の方と少しでもスムーズに会話ができるようになりたかったために、韓国語の会話を選択した。韓国文化授業も韓国語の授業と同様、10人前後と韓国人の先生という授業スタイルであった。具体的な授業内容としては、飲食店に行った際の韓国語での注文の仕方、待ち合わせの約束の仕方など、身近でよく使う韓国語の勉強を行った。この授業では、韓国語の授業より発音を重点的に見てもらい、詳しく教えていただいた。実際に韓国研修中に飲食店に行った際の会話に役に立った授業であった。

### 2-3 現地学習

現地学習では学校外に出て、韓国の文化などを学ぶ授業であった。研修中に2回ほど行き、1回目は利川陶芸村、韓国民俗村、慶熙大学国際キャンパスに行き、2回目はロッテワールドに行った。利川陶芸村ではマグカップへの模様付けや粘土からお皿を作ったりするなどをして、韓国の文化を手で感じてきた。また、実際に陶芸家の方に陶芸を作る場所を見せてもらい、韓国の陶芸を知ることが出来た。韓国民俗村は当時の韓国の階層別文化や生活様式をそのまま再現している伝統家屋があり、朝鮮時代の人々の姿を知ることが出来た。この韓国伝統村は韓国ドラマのロケ地としても使用されており、実際に私が日本で



見ていた韓国ドラマのロケ地もあり、とても興奮する場所であった。2回目のロッテワールドでは民族博物館で韓紙工芸（人形作り）を体験した。韓紙は韓国の伝統的な紙であり、韓紙人形工芸は韓紙を重ねてつけて作るものであり、少々難しかった。また、ロッテワールドの遊園地でも遊ぶことが出来、さまざまなアトラクションが屋内、屋外で楽しめる場所であった。現地学習では、学校には体験することが出来ないことを体験することが出来、貴重な体験となった。

### 2-4 トウミとの会話練習

慶熙大学国際教育院ではトウミ制度というものがあり、トウミとはボランティアで留学生のケアを1対1でしてくれる慶熙大学在学生のことである。私のトウミは、クォン・サンワンさんという方だった。サンワンさんとは一緒にお昼ご飯を食べながら、会話の練習、慶熙大学の校内を案内してくれるなど、とても親切にいただいた。サンワンさんはほとんど日本が喋れず、会話はもちろん韓国語であったが、わかりやすい韓国語で会話をしていただき、私の会話力も少し上がったと感じた。



### 3、研修中の放課後・休日

研修中の2週間、放課後や週末は自由な時間であったために、私は韓国のさまざまな場所へ出かけた。仁寺洞や明洞、東大門、江南などの観光地に行くことができ、韓国の魅力を感じることが出来た。印象に残っている場所は慶福宮という、朝鮮時代の宮殿や私の大好きなドラマのロケ地など、さまざまである。韓国では地下鉄での移動がメインであり、韓国へ行って始めのころは地下鉄の路線が多すぎて、迷うこともあったが次第に慣れていき、地下鉄での移動がとても便利だと感じるようになった。また、食事も各自で食べるために、韓国料理を食べたりすることが出来た。しかし、日本で食べる韓国料理とはまったく異なるものがあったり、辛すぎるものがあったりと韓国に行かないとわからないことも知ることが出来た。そ



して、従姉妹の韓国人の友人と一緒に食事をして会話の練習をしたり、飲食店でお店の方と会話をしたりするなど、自由時間ではコミュニケーションを自分から進んで取ることが出来、人脈が広がった。学校の授業では得られないことも得ることが出来、良かったと感じた。



### 4、まとめ

今回韓国研修に参加をし、日本では体験できないことを沢山経験することが出来た。また、韓国という異文化を理解できた。現在、政治の面において韓国と日本は関係が悪く、研修へ行くまでは少し不安な気持ちもあった。しかし、韓国で日本人だからと不快な思いをすることは一切なく、とても快く受け入れてくださり、いい人ばかりであった。そのために、これからの日韓の関係が良くなっていくといいなと感じた。2週間という短い間ではあったが、韓国語だけでなく、さまざまなことを学ぶことが出来て良かったと感じる。



今回、私たちは8月27日から9月11日まで韓国語研修ということで韓国のソウルにある、キョンヒ大学へ短期留学をしてきました。約2週間の韓国への滞在でしたが、学ぶことも多かったし楽しかったし、とても充実した2週間でした。

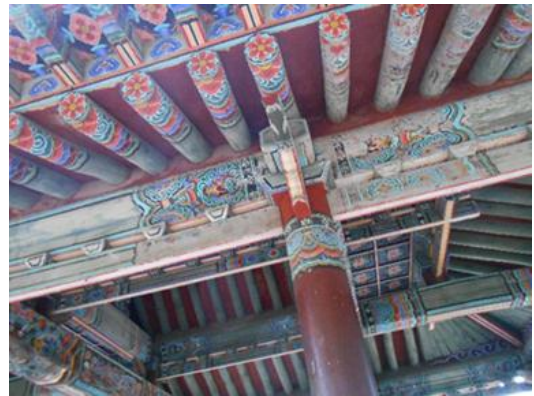
この写真は私たちが勉強したキョンヒ大学のキャンパス内にある図書館です。とても規模が大きくて驚きました。



初日の試験でクラス分けが行われ、私は初級1の5班になりました。私のクラスは県立大学の学生がいなかったのが最初は少し緊張しましたが最初の授業で自己紹介をしたり、授業中もグループになってやるのが多かったのですぐにみんなと打ち解けることができました。私のクラスはほとんどが日本人で、1人がイギリス人、1人がサウジアラビア人だったので、もっと国際的な交流がしたかったけどほとんど日本語で会話できてしまったのが少し残念です。授業はすべて韓国語で行われたので大変なところがありましたが、単語の意味を調べたり、隣の人に聞きながら頑張りました。授業では自分の携帯の番号の言い方や、「～がしたいです。」「～へ」「～も」など基本的なことを学びました。もうすでに知っているということもありましたが、韓国語で日記を書いたりなどこんな長く韓国語を書いたことがなかったので韓国語に慣れることができました。

また、韓国語の授業以外にも韓国での礼儀、韓国の歌などの授業もありました。クイズ形式で行われてお菓子が景品だったり、ゲーム感覚でできたのでとても楽しかったし韓国での礼儀もしっかり学ぶことができました。韓国の歌ではクレヨンポップやヘンリーなどのK-POPを歌い、今韓国ではやっている「キヨミ」をやりました。自分たちで振付を考えて踊って発表したり授業という感じの授業ではなかったのが楽しかったです。

学校内でやる授業だけでなく、外に出る文化授業もありました。その時に行ったのは、利川陶芸村、韓国民俗村、民俗博物館、ロッテワールドです。利川陶芸村では韓国伝統の陶磁器をつくり、民俗博物館ではチマチョゴリを着た人形を作りました。韓国民俗村はドラマの撮影などでも使われ、韓国の昔の街を実感することができます。そこは、私の好きなドラマ「トキメキ☆成均館スキャンダル」の撮影地でもあったのでとても興奮しました。



ロッテワールドは韓国で一番有名な遊園地です。屋内にも屋外にもジェットコースターなどたくさんの乗り物があります。私は絶叫系が嫌いなのであまり乗りませんが、雰囲気を楽しめたのでよかったです。また、ここも私が見ていたドラマ「ボスを守れ」の撮影地でもあったので撮影で使われたところを見に行きましたが工事中で残念でした。



また、授業は基本的に1時に終了だったので個人的に色々な場所に行きました。明洞、梨大、仁寺洞、江南、東大門などその他にもたくさんの場所に行きました。有名などろだと日本語を話せる韓国人が多くいるのでとても助かりました。しかし、明洞などはとても話しかけてきて店の中に入れようとするので少し大変でした。梨大と東大門は服がたくさん売っていて、特に梨大ではたくさん店があるけれど、どこも同じ服を売っていたのが驚きでした。しかし、服も安いのは5000ウォンで買えたし、靴も25000ウォンとか10000ウォンとかで売っていてとても安かったです。明洞は韓国コスメの店が多く、服やCDの店などもたくさんあったので次誰かと一緒に韓国に行ったら絶対ここにこなきゃと思いました。仁寺洞では有名な景福宮を見に行きました。



韓国の伝統的な建物を見ることが出来て、とても勉強になりました。そして、韓国にきて初のトッポッキを仁寺洞で食べたのですが、あまりの辛さに口から火が出るかと思いました。



左上がトッポッキです。右側にあるのも韓国の有名な食べ物でマンドゥといいます。日本の餃子のようなものです。マンドゥはとてもおいしかったのですが…トッポッキはもういいです。辛すぎでした。これを普通に食べている韓国人はすごいと本当に思いました。

韓国に行って、予想外だったことはとてもカフェが多いということです。歩いているといたるところにカフェがあるので、毎日のようにカフェに行きました。韓国人に「韓国はカフェがとても多い」ということ言ったら、日本は少ないの？とびっくりしていました。日本では友達とご飯を食べに行ったら、その場所でおしゃべりをするのが普通ですが、韓国ではご飯を食べに行き、食べ終わったらカフェに行っておしゃべりをするのが普通だそうです。おしゃべりだなあと思いました。カフェというと私たちは江南で2つの有名なカフ



エに行ってきました。マンゴーシックスとコピコジです。私たちが行ったマンゴーシックスはドラマ「紳士の品格」の撮影地でした。その撮影で座っていたテーブルは日本人の観光客の人がすでに座っていて座れませんでした。レモネードとワッフルを食べました。コピコジはJYJのジェジュンが経営しているお店で、2回には芸能人が髪のをよくするという美容院があり、店の前にはたくさんのファンが出待ちをしていました。コピコジの中もK-POPが好きな日本人がほとんどでした。



韓国での生活は大変なことも多かったけど、初めて言語が違う国に行って、異文化を理解することができたし、たくさん学ぶことがあった。韓国に行ってより韓国を好きになったのでまた、機会があれば行きたいと思う。

韓国研修に参加してよかった。国際文化学科のプログラムではなく、大学全体の募集のほうでの参加だったので参加前は不安がとても大きかった。しかしいざ参加してみると周囲の方のサポートのおかげでとても楽しく過ごすことができた。また、韓国での授業や観光、いろいろな人との交流を通して多くのことを学んだ。

キョンヒ大学での授業は韓国語の初心者レベルに参加した。基本的な単語や文法を習った。クラスメイトは全員日本人だった。長崎、福岡、東京、千葉など、日本のいたるところから来た学生とともに勉強した。最後の二日間はサウジアラビアの学生が二人加わり、多彩な環境の中で学ぶことができた。どの学生も三週間以上滞在するなかで、岩手県立大の学生だけが二週間で終わってしまい、とても名残惜しかった。また、授業を受けていて気づいたことがある。私のクラスの先生は日本語が堪能だったが、基本的に授業は全て韓国語で行われる。そのため説明がわからない部分も多い。しかし、ほとんどの学生が、わからないことがあってもなかなか質問できないのだ。それは韓国語が話せないからというより、勇気が出ないからといった感じだ。それでは自分にプラスにならないと感じた。わからないと思ったらその場で解決しようと努める姿勢で授業に臨むように昔からずっと言われてきたが、いまだに身につけていないことを痛感した。わからないことをわからないと言えない、言わない、受動的な態度を改める必要があると感じた。

寄宿舎の最初の数日間は、台湾人の学生と同室だった。互いに韓国語があまり話せなかったもので、英語でコミュニケーションをとった。韓国にいながらにして、英語の良い特訓になった。また、彼女は世界各国に留学した経験を持ち、とても興味深い話をたくさん聞いた。同じ学生として身の引き締まる思いがして、いい刺激になった。

私のトウミは男性の先輩だった。日本語はもちろん、英語も通じず、とても苦戦した。忙しかったらしく、大学周辺で食事のみをして終わってしまった。他のトウミさん達は地下鉄に乗ってペアの学生をいろんなところに連れて行ったりしていたので、うらやましかった。

韓国研修を通して一番痛感したことがある。それは事前の準備の大切さだ。事前の準備とは、荷物の準備といった物理的な準備だけでなく、韓国語の勉強、観光地の下調べなどの知識・情報の準備だ。その事前の準備の有無、またその程度によってその経験から得るものがまったく違ってくるのだ。今回はその準備が足りなかったと反省している。韓国では英語はほとんど役に立たないと言っても過言ではなかった。やはり韓国語はある程度話せるようになっておくべきだった。また、観光に行くにしても、買い物に行くにしても、交通機関や地図などの情報を下調べしておく時間をもっと有効に使えただろう。備えあれば憂いなしという言葉の通り、何をやるにも万全の準備が必要だと痛感した。

反省するべき点も、悔やまれる点もあるが、それ以上に楽しく過ごせたのでよかった。また、後期が始まって韓国語の授業に出たとき、韓国語の発音がよくなったとほめられた。そういう意味でも成長したと感じた。とても充実した2週間を過ごし、良い経験になった。